

令和2年度 文部科学省委託事業

就職氷河期世代を対象とした教職に関する  
リカレント教育プログラム事業

成果報告書

国立大学法人香川大学

令和3年3月

## 目 次

	ページ
1. 事業の概要	1
2. 事業の実施状況	1
3. 講習 7 科目の作成と実施	2
4. 附属学校園等を活用したサポートパックの提供	10
5. 成果	11
(1) 受講者は 62 名	11
(2) 修了者は 52 名	11
(3) サポートパックの利用者は延べ 33 名	11
(4) 受講者の肯定的意見	12
(5) 受講者の否定的意見	16
6. 今後の課題	17

## 1. 事業の概要

教員免許状を有するものの教壇に立ったことがない者等を対象に、ニーズの高いテーマのオンラインによる免許状更新講習を開発・作成してパッケージで提供し、短期間で集中的に受講できるようにする。

また、学校現場での基本的な教育の実践経験や最新の教育の実践経験を積むとともに、教職への不安や悩みについて相談できるようにするなど、附属学校園等を活用したサポートパックを構築し、希望する受講者に提供する。

## 2. 事業の実施状況

5月	<ul style="list-style-type: none"><li>・免許状更新講習（インターネット）の申請</li><li>・サポートパックの実施体制の整備</li></ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"><li>・免許状更新講習（インターネット）の認定</li><li>・サポートパックの実施体制の整備</li><li>・広報の作成、開始</li></ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"><li>・受講者募集開始</li><li>・免許状更新講習コンテンツの作成開始</li></ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"><li>・受講申し込み者の個別相談への対応</li></ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"><li>・免許状更新講習コンテンツ・配信システムの点検</li><li>・受講申し込み者の個別相談への対応</li></ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"><li>・免許状更新講習の開始</li><li>・受講申し込み者の個別相談への対応、サポートパックの提供</li></ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"><li>・免許状更新講習の実施</li><li>・受講申し込み者の個別相談への対応、サポートパックの提供</li><li>・受講申し込みの受付終了</li></ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"><li>・免許状更新講習の実施</li><li>・受講申し込み者の個別相談への対応、サポートパックの提供</li></ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"><li>・免許状更新講習の実施</li><li>・受講申し込み者の個別相談への対応、サポートパックの提供</li></ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"><li>・免許状更新講習の実施</li><li>・受講申し込み者の個別相談への対応、サポートパックの提供</li></ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"><li>・教員採用試験対策サポート</li><li>・受講申し込み者の個別相談への対応、サポートパックの提供</li></ul>

### 3. 講習 7 科目の作成と実施

#### ①【必修】教育の最新事情

担当者：毛利 猛（教育学部・教授、教育学）

坂井 聡（教育学部・教授、特別支援教育）

概要：前半と後半に分けて 2 名の講師が担当する。前半は主に、国の教育政策、世界の教育の動向、子ども観・教育観等についての省察を取り上げる。後半は主に、子どもの発達に関する心理学の最新知見、特別支援教育に関する新たな課題、子どもの生活を踏まえた課題を取り上げる。前半及び後半の講習をとおして、教員として知っておくべき教育の最新事情とともに、日々の実践に活かすことができる最新の見方・考え方を提供する。

構成：・教師と学校の両義性

（1）教師という存在

（2）学校という場所

・難しくなる教育的援助

（1）教育的援助の両極原理

（2）実例としての不登校

（3）今どきの子ども

・教育をめぐるトピックス

（1）教員の多忙化と働き方

（2）教職離れの危険な兆候

（3）子どもたちの仲間関係－島宇宙化とキャラ化

・ICIDH から ICF へ－WHO（世界保健機関）の障害分類－

・ICF の概念図

・障害者の権利に関する条約

・改正障害者基本法 教育条項（第 16 号）

・障害者基本法の一部を改正する法律案に対する附帯決議（衆議院）

・「合理的配慮」とは

・一貫した支援の仕組み

・障害者差別解消法の目的

・どのようなことが差別になるのか？

・この法律の対象は

・合理的配慮について、立場の違いで

・どこまでが正常なのか

・新氷山モデル（門）

・ところで何に困るだろうか？

- ・技術が必要なのです
- ・引き出される力を考えてみる
- ・障害があってもできること
- ・具体的にどうする
- ・軽度発達障害を知る
- ・ADHDのある人は
- ・かかわりかたのポイントは
- ・自閉スペクトラム症（ASD）の診断
- ・かかわりかたのポイント
- ・LDのある人は
- ・かかわりかたのポイントは
- ・かかわり方を考えるときに
- ・何に困るだろうか？
- ・決して忘れてはならないこと
- ・発達障害がある
- ・書字の課題
- ・メモが取れない
- ・書くことができない
- ・言葉で伝えられてもわからない
- ・文字を読むのに苦労する
- ・タブレット端末のメリット
- ・入試はどうする？
- ・OECD（経済協力開発機構）加盟主要国は進んでいる
- ・障害者に関する世論調査（平成29年8月調査）
- ・生まれてきてよかったといえる社会に

②【選択必修】【選択】学校に〈かえす〉心理学

担当者：大久保 智生（教育学部・准教授、教育心理学）

岡田 涼（教育学部・准教授、教育心理学）

概要：学校現場において、教師には多様な事柄への対応が求められている。特に、児童・生徒の資質能力を育むための授業を考え、実施することが重視されている。そのために、主体的・対話的で深い学びを実現する授業方法が模索されている。この講習では、教育心理学で蓄積されてきた研究知見をもとに、児童・生徒の資質・能力を高める授業のあり方や、児童・生徒が抱える諸問題の解決を支える生徒指導や教育相談のあり方について考える。

構成：・本講義の目的

- ・教育心理学の視点：心理学から教育を読み解くことの意義
- ・子どもの学校への適応：問題行動と個人と環境のマッチング
- ・授業や学級の雰囲気：心理的環境の重要性と測定方法
- ・授業内の行動と雰囲気の関係：教師と子どものコミュニケーション行動
- ・現代の教師に求められるもの：学び合い、授業マネジメント、授業外指導
- ・教師の成長と発達
  - （1）成長の道筋
  - （2）成長の諸側面
  - （3）指導観の変化
  - （4）人間関係の変化
- ・教師の成長と授業
  - （1）授業内コミュニケーション
  - （2）授業を見る目の変化
  - （3）熟達化と実践知
  - （4）成長のために

③【選択必修】【選択】 道徳教育の充実

担当者：植田 和也（大学院教育学研究科・教授、道徳教育）

概要：教科化としてスタートした「特別の教科 道徳」の経緯や改正された学習指導要領や解説の内容についてポイントを確認する。さらに、教科化に向けて、教員個人だけでなく各学校での取り組み、組織として何をすべきかについても考える。また、具体的な小学校や中学校で扱う教科書の教材を読みながら分析や発問について考え、評価の基本的な事項等について確認する。

構成：・オリエンテーション 道徳教育の使命と意義

- ・教科化の経緯
- ・道徳教育の歴史（戦後の道徳教育、各改訂のポイント）
- ・教科化の基本的理解（変わった点、変わらなかった点）
- ・学校の教育活動全体で取り組む道徳教育
- ・学校の特徴と年間指導計画
- ・道徳科の目標と内容
- ・道徳的諸価値の理解を深める
- ・小学校の教材を読んで見よう
- ・中学校の教材を読んで見よう
- ・指導方法の工夫と学習指導案
- ・多様な指導方法の工夫①～発問の工夫～
- ・多様な指導方法の工夫②～話合いの工夫～
- ・多様な指導方法の工夫③～板書の工夫～
- ・指導と評価の一体化「道徳科における子どもの評価」
- ・指導と評価の一体化「道徳科の授業評価」

#### ④【選択】はじめての特別支援教育

担当者：小方 朋子（教育学部・教授、障害児教育学）

中島 栄美子（教育学部・准教授、臨床心理学・特別支援教育）

概要：特別支援教育の重要性についての認識は学校現場でかなりすすんできた。しかし、特別支援教育コーディネーターの研修会は数多くあるが、コーディネーター以外の方に対しての研修はなかなか機会を確保できないと聞く。平成 28 年度から「障害者差別解消法」が施行され、学校現場においても合理的配慮についての情報が必要とされている。一度は話を聞いてみたい、研修を受けてみたい方に、特別支援教育の基本的な考え方やアセスメントについて、基礎的な事項を中心に講義する。

構成：・特別支援教育とは

- ・特別支援教育へ移行した背景
- ・特別支援教育の現状
- ・就学の仕組み
- ・特別支援学校の教育
- ・特別支援学級
- ・通級による指導
- ・自立活動
- ・合理的配慮
- ・個別の教育支援計画と個別の指導計画
- ・教員の専門性と免許状
- ・障害理解教育と交流および共同学習
- ・今後の課題
- ・特別支援におけるアセスメント
  - ・アセスメントとは—アセスメントの意義と目的—
  - ・アセスメントの内容と領域
  - ・アセスメントにおける倫理
  - ・発達のアセスメント
  - ・学習・学力のアセスメント
  - ・知的能力のアセスメント
  - ・社会性のアセスメント
  - ・行動のアセスメント



⑤【選択】教師の指導が助長する問題行動とその見方

担当者：大久保 智生（教育学部・准教授、教育心理学）

概要：学校や学級が荒れると、教師は何とかしてそれを治めようとして、問題行動をする児童・生徒に対して様々な指導を行う。しかし、教師の努力にも関わらず、教師が指導すればするほど、問題行動がエスカレートしていく。本講習では、このような教師の指導が助長する問題行動とその見方について考えていく。

構成：・見方と考え方を変える

- ・学級崩壊の事例から
- ・答えは普段の生活に
- ・学校適応と問題行動
- ・問題行動を助長する指導
- ・反社会的行動を考える
- ・非社会的行動を考える
- ・万引きを考える
- ・いじめを考える
- ・学校の荒れへの誤解
- ・学校の荒れを考える
- ・荒れの収束の事例から
- ・地域連携の事例から
- ・間接的な対策の重要性

⑥【選択】学校防災について考える

担当者：北林 雅洋（教育学部・教授、理科教育）

寺尾 徹（教育学部・教授、気象学）

概要：学校の防災をより確実なものにしていくためには、過去の事例に学び、教訓とともに検討すべき課題を明確にしていくことが欠かせない。前半では、2011年に発生した東日本大震災において津波に被災した岩手県と宮城県の小・中学校に関する網羅的な実地調査の結果に基づいて、いくつかの特徴的な事例を検討する。後半では、最近頻発している気象災害、土砂災害について、特徴的な事例を検討する。

構成：・学校の責任の重さ

- ・事前に避難し続けることのたいへんさ
- ・釜石東中学校の「当たり前」
- ・避難用通路の有効性
- ・津波火災の危険性
- ・次の手が打てる避難の重要性
- ・避難場所に指定されていた学校の明暗
- ・大川小学校の難しさ
- ・風水害と学校防災
  - ・近年の大規模な風水害
  - ・地球温暖化と風水害の深刻化
  - ・風水害にともなう防災気象情報と学校防災

⑦【選択】乳幼児理解から「子どもとつくる保育」へ

担当者：松本 博雄（教育学部・准教授、教育心理学・発達心理学）

松井 剛太（教育学部・准教授、教育学・特別支援教育）

概要：子どもの「声」を聞き、それを評価と計画に反映させながら保育実践をアレンジしていくことは、就学前教育・保育の質を高めていくうえで欠かせないプロセスである。「発達」「遊び」「多様性・多声性」「尊厳」「包摂」等のキーワードに基づき、明日からの具体的な保育実践を考えるうえでの手がかりを探るとともに、乳幼児保育実践の今日的課題への理解を深め、持続可能な社会に果たす保育の役割を考えていく。

構成：・子どもの尊厳と権利

- ・「子どもとつくる保育」の基本
- ・子どもとつくる保育：0歳児
- ・子どもとつくる保育：1歳児
- ・子どもとつくる保育：2歳児
- ・子どもとつくる保育：3歳児
- ・子どもとつくる保育：4歳児
- ・子どもとつくる保育：5歳児
- ・保育の質
- ・探求の園文化
- ・子どもの声を聴く（1）
- ・子どもの声を聴く（2）
- ・保護者の参加
- ・インクルーシブ教育
- ・資質・能力
- ・小学校に向けて

#### 4. 附属学校園等を活用したサポートパックの提供

- Sp1** 附属学校園を活用して、参観実習、TT等による体験授業を通して、教員として勤務するために必要な知識・技能を身に付けられるようサポートを行う。
- Sp2** 教員採用試験のサポートとして、香川大学教育学部で実施している、「教職自主サークル」や「教職セミナー」等を活用して、個々に応じたサポートを行う（一部動画配信可能）。
- Sp3** 自由参加型プログラムとして、「授業づくりワークショップ」への参加や、道徳ラボ、英語ラボ等の多彩な研修会等の情報も提供し、参加を促す（一部動画配信可能）。
- Sp4** 自主学习サポートプログラムとして、香川大学や香川県教育センターが開発しているオンデマンド教材、DVD研修教材等を提供する。DVD教材の内容は、ネット上で視聴可能。希望があれば、全国へ郵送も対応可能。
- Sp5** 「教職何でも相談ネット（道徳ラボ等での実績有）」による教職への不安や悩みに対して、各専門家が相談に応じながらサポートする。
- A：学校の教員や行政経験のある実務家教員による相談
  - B：各教科の専門家による相談

※Sp3の「授業づくりワークショップ」の一部動画配信やSp4のオンデマンド教材とDVD教材、Sp5の「教職何でも相談ネット」等、全国的なネット配信やDVD教材の郵送等で幅広く対応した。

## 5. 成果

### (1) 受講者は 62 名

受講申し込みの締め切りを、当初は 9 月 23 日としていたが、11 月 30 日に延期した。応募者は 70 名あったが、条件を満たさず受理できなかった者が 4 名、その後の受講取り止めが 4 名あり、受講者は 62 名であった。

そのうち、香川県在住者は 30 名であった。

〈県別受講者数〉

香川 30	徳島 1	愛媛 2	岡山 4	広島 1	大阪 1	京都 2
兵庫 4	奈良 1	和歌山 1	福岡 1	佐賀 1	鹿児島 1	愛知 1
岐阜 1	東京 3	神奈川 2	千葉 2	山梨 1	長野 1	宮城 1

各講座の受講者は次のとおりであった。

教育の最新事情：62 名

学校に〈かえす〉心理学：60 名

道徳教育の充実：39 名

はじめての特別支援教育：54 名

教師の指導が助長する問題行動とその見方：56 名

学校防災について考える：30 名

乳幼児理解から「子どもとつくる保育」へ：6 名

### (2) 修了者は 52 名

受講者の 84%が修了となった。

このうち、香川県在住の修了者は 25 名であった。

### (3) サポートパックの利用者は延べ 33 名

希望者に提供された教職への支援（サポートパック）は、附属学校園の参観の機会が新型コロナウイルス感染症対策のために限られていたとはいえ、5 種類のサポートについて、延べ 33 名の利用があった。

#### (4) 受講者の肯定的意見

受講後に提出された「受講者評価書」の「自由記述欄」には、多くの記載があり、次のように、肯定的な意見が大半を占めた。

- ・環境を整えば障害と感ずることが減るといふ講義内容にはっとさせられた。このことは身体的な障害を抱えられている方だけでなく、すべての人に当てはまることだと思つた。子供と接するときになぜしないのかと頭から叱らず話を聞き、頑張りたと思える環境を整えることが大切なのだと思つた。
- ・教員ではないため、実際の学校現場の置かれている状況がよく認識できた。マスコミのバイアスは否めないが、教員の職業は正當に評価されるべきと感じた。
- ・日本の特別支援の歴史から海外のことまで、実体験と考へさせる映像を視聴することができてとても興味深く講義を聴きました。
- ・オンライン学習で何度も学ぶことができ、とてもよかつたです。また、オンライン試験の際も親切な対応を本当にありがとうございました。
- ・遠隔会議システムですつと見られていることを意識しての試験は緊張しました。しかし、単元を細切れに受講できる利点があり、オンライン学習には感謝しております。
- ・オンラインで学ばせていただくという新しい試み、貴重な機会を賜りありがとうございます。
- ・今の学校現場の課題や特別な支援の必要な児童生徒への具体的な支援方法などが、わかりやすく説明されていて興味深かつた。
- ・教育現場が疲弊していることや抱えている問題について、再認識できた。これまで、特別支援について学ぶ機会がほとんどなかつたので、大変勉強になった。
- ・体調を崩しており、外出するのも難しい状況で、Web 学習をいつでもどこでも受けることができ、また認定試験も遠隔会議システムで受けることができ助かりました。体が回復しましたら更新した免許状を活かしたいと思ひます。
- ・普段、メディアから流れてくる情報で学校、教師、子どもたち、親などの事情を知っていたつもりだったが想像以上に福祉とのつながりが必要だと感じました。福祉教育の重要さの再認識ということ。
- ・教育現場の厳しい状況を知り、教壇に立つことの意味・重みを再認識できた。様々な特別な配慮の事例、その視点が非常に参考になり、自身の視点も変わった。
- ・様々な視点からの研究や学校の現状を学ぶことができ、私自身どんな教師になりたいか、どんな授業をしたいか考へる良いきっかけとなりました。
- ・教員ではないが、人財育成の視点で学ぶことがたくさんあつた。その中には、この講座を受けなければ気づけないこともあり、後3年間での熟達者養成に応用したい。
- ・多角的な視点を身につけ自ら考へる必要性を感じた。
- ・心理学の用語や理論を、学校現場や授業の中で説明して頂き、やや難しい内容だったが興味深く学べた。

- ・ご講義内容も、ポイントをまとめていただいたり、データ・図表を提示していただき、わかりやすく学べました。運営面もサポートいただきスムーズに行えました。
- ・約 10 年前に高等学校で、学級担任を持っていたときに、この講義に出会っていたら同じ学年のあの学級を救えたのかもしれない。貴重な話ありがとうございました。
- ・自分が生徒だった時、学校に勤務していた時、保護者として関わっていた時、別の職種で学校と関わっていた前職を振り返ることができ、有意義な時間を過ごせた。
- ・今までの自分の知識の中に無かった内容が多くあり、大変興味深い内容でした。更新講習に限らず、今後も学び続けていきたいと思わせてくれる内容でした。
- ・要点復習シートはよかった。
- ・一番分厚い講習資料で、難解なイメージでしたが「解説」内容を分かりやすくまとめてくださってあり、とても親切で丁寧な内容であったと受講後に気付きました。感謝です。
- ・教科化の経緯から、授業実践の例まで網羅されていて、とらえどころがなく感じる道徳科について、大変勉強になりました。
- ・現場に出てからも講義記録を読み返したいと思える内容であった。著書は講演会などでも勉強したいと思える講義であった。
- ・たまたま自宅に「学校に還す心理学」があり、題名が良いと思っていました。良い実践と良い理論とは一対なのかもしれません。実践者には程遠いですが、勉強になりました。
- ・四半世紀前に大学で習った教育心理学とは隔世の感があり、実践に直結するような興味深い講義内容で、更新講習の意義を感じることができ、大変勉強になった。
- ・近年、我が子の学校でも道徳の授業参観が増え親としては算数や英語の授業を見たいと思っていたが、道徳の重要性を理解することができて、大変勉強になった。しかし子どもたちはなぜ道徳の授業をするのか理解できていないようだったので伝えたいと思う。また、講習で実際の板書や授業を見ることができたのは良かった。
- ・教職活動をしていないので、漠然として捉えていた道徳の歴史や目的など詳しく説明があり分かりやすかったです。理解をしていく上でまだ勉強が必要と感じました。
- ・学ぶ項目や流れが明確で、テキスト・映像とが十分に結びついており、たいへんわかりやすかった。今後も参考になるような文献やサイト情報も教えていただいたので、自身の学びに活かして参りたい。
- ・道徳が一番難しい授業と考えているので評価等も学べてよかった。
- ・資料がとても充実していたので、一旦立ち止まって自学習するときに、ポイントがわかりやすく、その内容がとても実用的でした。道徳の授業はしたことがなく、最初難しいと思いましたが、ネットを使った参考資料などを示してくださったおかげで、勉強しやすく（特に動画）また道徳の授業が楽しそうだなとも思いました。
- ・教員ではないが、特別支援教育がより広く社会にも認識され、児童生徒が社会の中でさらに活躍するには、社会の側の意識・認識の変化が求められると強く感じた。
- ・現場で特別支援教育支援員として働いているので、この講習はとても興味深かった。特

に合理的配慮でできることや WISC-IV の検査結果の見方等、大変参考になった。これからの実践につなげたい。認定試験では考えを文章化することが出来ず、日頃から文章を書く練習をしないといけないと痛感した。

- ・ 大変多くの法改正や数値など情報が盛り込まれており、ついていくのが大変でしたが、自分なりにまとめ書籍等も読み始め、発展させていくいい機会になりました。
- ・ 特別支援教育の現状を知り対応を考える良い機会になりました。参加している知的障害者バスケットボールの指導にも活用できそうです。
- ・ 特別支援教育のことを正直いって、学生の頃はあまり理解していませんでしたが、今回講習を受けていくうちにとても興味関心がわき、教壇にたつことができた日には率先してかかわってこうというふうに考え方がかわりました。
- ・ 問題を解決することは決して簡単な事ではないが、教師の働きかけ一つで結果が大きく左右するので、教師という仕事の重さを改めて感じた。ただ、何度でも改善するチャンスはあり、周りにも協力してもらいながら、子供達一人一人、そして授業を大切に取り組んでいきたいと思った。
- ・ 学校現場の置かれている状況はマスメディアからの情報しかないが、実情をもっと深く知りたい。教師以外の立場で地域・ボランティアとしてもかかわりたい。
- ・ 問題行動について多角的な視点を身につけることができた。
- ・ 講義の組み立てに工夫があり、事例などもとても興味深く聴くことができました。万引きに現場で直面した時には、今回の講義記録や著書を参考にしたいと思います。
- ・ 問題行動の助長する理由やその対応策など教育現場で知識技能の厚みになったと思う。
- ・ 問題行動については単に教師側の困りごと程度の認識しかなかったので、問題提起としても、対策の視点としても新鮮に感じられ、大変興味深かった。
- ・ 先生の講義は、時折イラストを交えてのもので、わかりやすかった。私自身、学級の荒れを全く経験したことがないので、学校・学級の荒れの話は特に心に残った。自分の見方を変えなければならないなと思った。これをすれば改善するといったものを求めるのではなく、自分の頭でしっかりと考えていく大切さを学べた。
- ・ 講習は、内容も面白かったですが、説明の仕方が大変よかったです。一つの言いたいことに対してわかりやすく言い換え、図解で示し、イメージが湧きやすいようにイラストまで準備されていましたので、教師としてわかりやすく面白い授業の見本ともなっていました。講義の内容である問題行動自体が経験不足も折り重なって具体的にどう対応するのか、その場で子供たちや状況に立ってみないと見えてこないものがあったのでその辺りは、非常に難しかったですが、それをここまで説明できるのは素晴らしいと思いました。見方や関わり方の良い指針となればなと思います。
- ・ 学校での子どもの問題行動について、よく話を聞いたり直面することがあり「何故だろう」と常に思っ解決の糸口を探していました。その中で、地域の方が関わることで、ご本人と保護者との関係がよくなり現在は学校が大好きで休まずに行けるようになった



子があります。教師だけでは難しいことを実感していたところ先生の理論を知り、さらにはどのような関わりができるかを考えていきたいと思いました。

- ・先入観が一気に払拭された講義であった。また、指導をすればするほど問題行動が助長される仕組みも理解できた。見方を変えることで得られることはたくさんある。
- ・教職を離れて30年程経っての講師志望で、当時の問題行動への対応は、どちらかというところ力技だったように思います。勉強になりました。
- ・本講習は実際の業務の中で非常に大切な事として認識することができた。早速、ボランティアで活動している放課後子供教室でもスタッフ間で避難経路を見直すことができた。
- ・本学修は、学校と行政・地域との課題をも考える内容であると感じた。教員ではないが、危機管理の面では、会社生活で考えている共通点が沢山あった。
- ・子どもの命を預かっているという原点を再確認出来ました。目が覚め、気の引き締まる思いです。
- ・大川小学校の件は報道で知っていたが、なぜあの時、被害が大きくなってしまったのか詳細は知らなかったもので、今回、この講義で扱われていて、興味深かった。あれだけの数の学校の実地調査は大変だったと思う。いろんな避難のパターン、そして結果を知ることができた。当地は南海トラフ地震が30年以内に発生する可能性が高いと言われていたので、このような講義を拝聴することができて大変良かった。身が引き締まる思いがした。
- ・東日本大震災から10年という節目の時に、綿密なデータからの避難行動のあり方が学べて幸いでした。「CO2削減」が取り上げられることが多く、異常気象について関心はありましたが、普段は難解なイメージの気象データを講義で理解することができました。
- ・実地調査を踏まえた講義は、とても説得力があり、いかに事前訓練が大事かを実感できた。また、風水害の講義は、香川だからこそ安心できないと分かった。
- ・東日本大震災からの教訓といった内容、大変勉強になりましたし、これからの教育現場に必要なものを改めて考えさせられ、心に響く講義でした。
- ・大川小学校のことを絶対に忘れてはいけないと同時に、この講義を受けて、学校防災に対する意識がかわりました。ぜひ現場で実践していけたらと思います。
- ・わかりやすく、たくさんの学びをありがとうございました。

## (5) 受講者の否定的意見

一方で、次のように否定的な意見・要望も寄せられた。

- ・テーマが2つある試験は特に、もう少し時間に余裕をいただきたいです。メール送付用にファイル形式を2種類、整える時間が必要であったため、解答記載スタートが遅れました。
- ・内容はためになると感じましたが、トピックスごとの「考えてみましょう」という小レポート的なものの質問に対して、答えが簡潔にできるのに文字数の指定が多く答えにくいと感じました。もう少し質問の仕方を変えてもらおうと、同じ内容でも答えやすいと思います。
- ・心理学を実践にどう生かすのかは、本当に興味深い内容なのですが、実践不足もあって難しかったです。視点として、とても興味深かったので、内容をまた見直せる時間が欲しいと思いました。(視聴期間の延長など)働いて忙しい人も多いと思うので、忙しい時期と重なった人にとっては、3月まで延ばしていただけたらか。
- ・課題の内容・量が非常に多く、精選してほしいと感じた。重要なことは十分理解できるが、大学の講義のように次の講義まで1週間あるわけではないので、数十頁読む読み物、40分の授業動画を見るなどは負担が大きかった。
- ・解説とされる資料をインターネットから自分で印刷を大量にしなければならず、資料がバラバラし、出来ることなら教科書の中に入れて製本して頂きたかったです。
- ・普段、教師という職に無い自分にとっては、ハードルの高い教科でした。実際の授業経験や指導要領に馴染みが無く、展開の早さや内容の深さに難しさを感じました。
- ・論文テーマが2つある試験は、もう少し時間に余裕をいただきたいです。時間をかけて学んだぶんその内容を存分に(今後の自分のためにも)書き上げたい気持ちがあります。テキスト体裁を整え読み返す時間もほしいので、せめて45分か50分あればと感じました。内容は大変勉強になりました。
- ・講義の内容量に比べてテキストの内容が少なく、わかりづらいところがあった。
- ・試験日まで講座が開講されていてほしかった。
- ・東日本大震災と、近年の風水害の増加について、大変興味深い講義でした。40分の試験時間ではお二人の先生の試験での記述解答は時間が足りませんでした。

## 6. 今後の課題

### ①テキストについて

受講者の参考になればとの考えから、かなり丁寧なテキストを作成して、それを見ながら受講するようにした。しかし、テキストはマイナス面も大きかったようである。テキストに依存し過ぎて、動画から工夫して学びとることが疎かになったと思われる受講者が少なからずいたと、認定試験の答案より推察できた。受講者には、レジュメ的な補助資料を渡すようにして、視聴に集中することを促すよう、改善する必要がある。

### ②試験について

複数教員で担当すると、どうしても試験の課題が多くなり、受講者には負担が大きくなってしまいう傾向にある。また、遠隔会議システムを用いての試験についても、不慣れなために試験に集中しきれなかった受講者もいたようである。受講者の負担が大きくならないように、試験の在り方も改善する必要がある。

### ③トピックスごとの「確認」等について

トピックスごとに、受講者が内容を確認できるような「小問題」を、工夫する必要がある。

### ④学習コンテンツの修正

受講者からの意見を参考に、それぞれの講習科目の学習コンテンツについて内容や構成の再検討を行い、可能な範囲で修正を加える必要がある。